

2023年度からスタート! 地域移行でどう変わる?

「学校運動部活動」



現在、スポーツ庁で、①中学校などの生徒に魅力的なスポーツ環境の実現、
②地域住民に向けたスポーツ環境の整備、この両観点からめざすべき
地域スポーツ環境、また、地域スポーツ振興の観点から地域移行
でほかにどんな効果が期待できるのか議論されている。大きく変わ
ろうとする日本のスポーツ環境、その詳細を追う。



部活動にあるさまざまな楽しみ方のスタイル。その実現に向けても……(写真/cba-ピクスタ)

中学生の人口が大きく減少、
深刻な部員不足
次年度から休日の運動部活動
の段階的な地域移行が始まりま
すが、なぜ今なのか。現状、学校
側の問題点はどこにあるでしょ
うか。
まずは、活動の中心となる生徒
側からの視点で考えてみます。少
子化が叫ばれ久しくなります
が、実際、第2次ベビーブームの世
代が中学生であった1986年
時の中学生は約590万人。対
して現在は約295万人と半分
近くまで減っています。



【運動部活動の現状に迫る①】 どこにあるのか「学校での活動課題」

私も当時生まれた40
代後半ですが、40代、30
代ぐらいの保護者世代
は、中学校には生徒が何
百人もあり、部活動もた
くさんある学校生活を
送ったものの、今は昔。今
では、特に集団競技の部
活動は、試合に出るメンバーをそ
ろえるのがやっとな、レギュラーで
さえ初心者ということも。部内で
紅白戦なんてとてもできないとい
う状況の学校が増えています。



解説/藤岡謙一
スポーツ庁政策課前学校体育室室長

以前、私は横浜市(神奈川)の
公立中学校で校長を務めたこと
がありました。人口の多い横浜
でさえ部活動の小規模化は進み、
年度末に校長同士で話すとき、何
とか来年は部活動を維持できそ
うだが、そんな話題が上るほど。こ
れが地方の中山間部なら、より厳
しい現実があるでしょう。

さらにいえば、子どもにすれば
いろいろなスポーツから活動を選
びたいと思っています。例えば先
日の東京大会や次のパリ大会(オ
リンピック)の影響もありスケート
ボードやダンスが大変人気です。

膨大な時間外勤務、
求められる下準備

一方、教員の側はどうでしょう?
部活動に対する考え方は教員そ
れぞれですが、客観的事実とし
てそこに費やされている時間は
非常に大きくなっています。

2016年の文部科学省の調査
では、運動部顧問の超過勤務時
間は長く、月(30日換算)平均
110時間にもなります。過労
死のラインは毎月で100時間
超、複数月なら80時間超です。

生活に前向きになっていたので、
ぜひ続けてほしいと願っていまし
たが、その部の勝利をめざす活動
方針と合わず、結局やめてしま
いました。

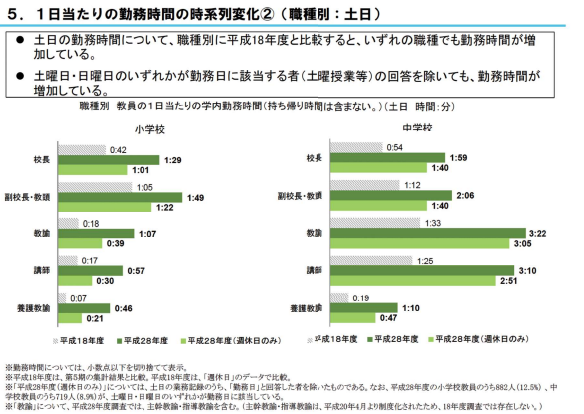
学生のことにはその素地をつくっ
ていくことに、今、とても大事なこ
とです。

今後の地域でのスポーツ活動に
おいては、多様な活動が必要と考
えます。運動が苦手であったり、
障がいがあったりする生徒でも
気軽に参加できるような活動も
あるなど、多くの選択肢があるこ
とが、魅力的な活動になり、多様
性を追求していくためにも必要
です。

そのため、二つの競技種目だけ
なく、レクリエーション的な活動も
含めてさまざまなスポーツに親
しめるようにすることや、中学生
だけでなく、大人や高齢者と一
緒に活動することなどが望まし
いと考えています。大人に姿を見
るとは、子どもたちにとって、と
てもいいモデルになるはずで
す。また、大人にとっても、スポ
ーツを子どもたちと一緒に楽し
み、時には技術を指導して、子
どもたちが成長する姿を目の
当たりにすることは、とても
楽しいことだと思います。

ずいぶんまでも
愛せるように、今

人生100年時代。子どもた
ちが将来、健康で長生きするた
めには、若いときだけ
でなく、生涯にわたってスポ
ーツに親しむことが
大切です。中学生
のときに大会でど
んなにいい成績を
残しても、大人に
なったらスポーツ
をやめてしまっ
た、それでは意味が
ありません。いつ
までもスポーツを
続けてほしい。中



【出典】文部科学省「教員勤務実態調査(平成28年度)(確定値)」について

で、心身とも
に過酷な状況
にあります。
もう一つ、今
日の教育現場
は、生徒個々
に応じた指
導、ICT(情
報通信技術)
による充実し
た授業など、
教員に求めら
れるものはと
ても広く、そ
の準備にも追
われていま
す。仮に部活
動のためにそ
の準備が十分
でなければ、
生徒にとって
ですが、教員
側にも憔悴(せうすい)する
思いが察(さ)します。
少子化で学校規模が縮小し、
生徒も教員も減っています。教員
が多い時代は部活動も、複数の顧
問で分担もできました。今は、二
人の教員で一つの部を担当でき
ばいい方で、一人で一つの部や、複数
の部を担当することもあります。
運動部活動は、多くの生徒にス
ポーツの機会を提供し、生徒の健
全育(けんいく)成など、とても大きな成果

をあげてきました。しかし、少子
化や学校の働き方改革の進展の
なかで、今の学校の部活動は限界
を迎えており、将来にわたり学校
だけで生徒にスポーツの機会を提
供していくことは大変難しいと思
われます。そのため、学校に代わ
り地域でスポーツの機会を確保し
ていけるよう取り組みを進めてい
く必要があります。

今の時代に求められる
スポーツ活動の姿

生徒の自発的活動として始
まった部活動は、社会情勢の変化
に合わせてその姿を変えていま
した。
1964年に開催された東京
オリンピックに向けて競技力向上
が重視されるようになり、また80
年代に学校が荒れるようになる
と生徒指導の環(わ)という面が強く
なってきました。
では、生徒のスポーツ活動とし
て、今はどのような姿が求められ
ているのでしょうか。キーワード
のつは「多様性」だと思います。
学校には、スポーツが大好きな生
徒もいれば、運動が苦手な生徒、
障がいのある生徒など、多様な生
徒がいます。私が校長をしていた
とき、二人の特別支援学級の生徒
が運動部に入部しました。学校

さらに!
その指導力、
ぜひ地域のスポーツクラブで

今、学校の部活動で顧問をしている教員の
方々のなかには、強い熱意や高い能力がある
人も少なくありません。このような方々には、
今後は、ぜひ地域の活動で活躍してほしいと
思っています。兼職兼業の許可を得れば、土日
に報酬を得て地域のスポーツクラブなどで指
導することも可能です。
熱意や能力のある教員の方々は貴重な人
材。ぜひ、地域でのスポーツ活動にお力を貸し
ていただき、地域の子どもたちの成長を支え
てほしいと考えています。

さらに!
その指導力、
ぜひ地域のスポーツクラブで